

環境経営レポート

岡畑産業株式会社

2025年2月10日

活動期間：2024年1月～12月

- P2 ① 環境経営方針
- P3 ② 事業所の概要
- P5 ③ 環境経営活動の取組内容
- P7 ④ 環境経営活動の取組結果
- P10 ⑤ 取組結果への評価
- P11 ⑥ 関連法規の違反・訴訟等の有無
- P12 ⑦ 次年度以降の活動目標
- P13 ⑧ 代表者による全体の評価と見直し

1. 環境経営方針

基本方針

岡畑産業㈱は化学品の専門商社として、社是に掲げる「誠実を旨とし、企業の繁栄を築き、社会に貢献しよう」を基本に「技術と環境の融合」「新たな付加価値の追及」「グローバル展開」を目指した企業活動を展開しております。

岡畑産業㈱は「技術と環境の融合」を推進する為の環境に配慮した取り組みとして以下に掲げる項目を重要なテーマに据え、継続的に環境負荷の軽減に取り組みます。

【行動指針】

1. 商社活動に伴う環境関連法規制ならびに協定を遵守致します
2. 環境負荷物質に関する情報収集と管理を行い環境負荷物質の削減を目指します
3. 物流に伴い消費されるエネルギー消費量の削減を目指し、物量と配送経路を継続して点検し、環境に配慮したロジスティックスを構築します
4. 環境経営目標を定め又見直しを行い継続的改善に努めます
5. 具体的取組として以下のスローガンを決め環境負荷削減を推進致します
 - ① 省エネルギーの推進（電気・ガス使用量）
 - ② 省資源 廃棄物の削減
 - ③ エネルギー消費量の削減（ガソリン使用量）
 - ④ 水使用量の削減
6. 環境負荷削減活動を継続して取り組むため、社員に環境教育を通じて周知徹底致します
7. 日常の事業活動には環境負荷の少ない製品を積極的に購入します
8. 環境経営レポートを通じて 取組内容を社内外に公表致します
9. 化学物質の適正管理および環境に配慮した製品の情報提供に努めます

作成：2012年4月 1日

改正：2024年2月29日

岡畑産業株式会社

代表取締役社長

岡畑博之

2. 事業所の概要

(認証登録対象組織)

2-1 事業所名及び代表者名

代表者：代表取締役社長 岡畑博之

2-2 所在地

本社・大阪支店	〒542-0081	大阪市中央区南船場1-7-11
東京支店	〒103-0027	東京都中央区日本橋3-3-9 メルクロスビル7階
名古屋支店	〒460-0012	名古屋市中区千代田5-16-11
和歌山支店	〒640-8154	和歌山市六番丁24 ニッセイ和歌山ビル7階

2-3 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

- | | | |
|--------------|--------------|-----------------------------------|
| 1) 環境管理責任者 | 三神 | |
| 2) 副環境管理責任者 | 宮城 | |
| 3) 環境事務局 | 平田、梶 | |
| 4) 推進委員会 | 大阪本社・支店 | 庄山、中川、松本、姉川、伊藤優、平岡
三宅、松山、伊藤、川野 |
| | 東京支店 | 辻林、神谷、木下、田伏、山田、伊藤淳、山崎、脇田 |
| | 名古屋支店 | 棕田 |
| | 和歌山支店 | 安里 |
| 5) 連絡先：三神、平田 | | |
| 電 話 | 06-6262-0641 | |
| F A X | 06-6262-0838 | |

2-4 事業活動（認証・登録範囲）

工業用薬品・染料・顔料・中間体・界面活性剤・合成樹脂原料及び製品の卸販売並びに輸出入

※事業年度は当年4月～翌年3月、エコアクションの活動期間は当年1月～12月

2-5 事業所の規模

総従業員数 83名 2024/12/31現在

本社・大阪支店

- 1) 従業員数47名
- 2) 事業所の面積898㎡
- 3) 当支店の年商：120.1億円 (2024年1月～12月実績)

東京支店

- 1) 従業員数30名
- 2) 事業所の面積497㎡
- 3) 当支店の年商：212.6億円 (2024年1月～12月実績)

名古屋支店

- 1) 従業員数4名
- 2) 事業所の面積215㎡
- 3) 当支店の年商：94.3億円 (2024年1月～12月実績)

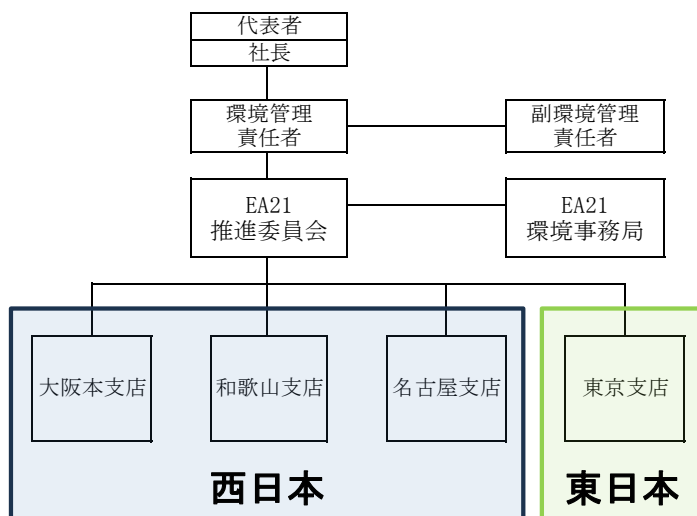
和歌山支店

- 1) 従業員数2名
- 2) 事業所の面積147㎡
- 3) 当支店の年商：18.3億円 (2024年1月～12月実績)

※海外出向者 3名除く

2-6 事業組織図

全社における各の位置づけを下記の事業組織図に示す



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・全体の評価と見直しを承認 ・環境活動レポートの承認
副環境管理責任者	・下記業務に係る環境管理責任者の補佐 ・環境経営システムの構築、実施、管理、 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認 ・環境経営目標・環境経営活動計画書を確認 ・環境経営活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・全体の評価と見直しを実施 ・環境経営レポートの確認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理、 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認 ・環境目標・環境活動計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境目標・環境活動計画書原案の作成 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
EA21推進委員会	・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・社員への環境教育の立案・実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

3. 環境経営活動の取組内容

3-1 省エネルギーの推進（CO2の削減）

【目的】

- ・ 消費電力を低減することによりCO2排出量の削減に努める。
- ・ ガス式のエアコンによる使用量軽減のため、エアコンの温度設定・使用時間を決め、削減に努める。
- ・ CO2排出量は消費電力量・ガス使用量から算出する。
- ・ 電力係数には2013年度の関西電力の調整後排出係数0.516を使用する。

【目標】

- ・ 消費電力削減目標数値を上回らないようにする（別途記載）
- ・ ガス使用量削減目標数値を上回らないようにする（別途記載）

【活動計画】

- ・ エアコンの温度設定
夏場 室温が28度程度となるような温度設定
冬場 室温が20度程度となるような温度設定
- ・ エアコン未使用推奨期間（4月～5月、10月～11月）
- ・ クールビズの実施
- ・ 通年でのノーネクタイの実施（※お客様対応時を除く）
- ・ 昼休みや残業時の不要照明の消灯、離席時のPC電源OFF
- ・ 部門別温度管理
- ・ 不要な電球の取り外し

3-2 エネルギー消費量の削減（ガソリン）

【目的】

- ・ 社有車の燃費向上と給油量の低減によりCO2排出量の削減に努める。
- ・ 燃費は給油量/走行距離により求める。
CO2排出量 式、 $CO_2[kg] = 2.32 \times \text{ガソリン消費量}[l]$

【目標】

- ・ ガソリン削減目標数値を上回らないようにする（別途記載）

【活動計画】

- ・ アイドリングストップの実施
- ・ 運転中の急加速を控える。
- ・ 物流に伴い消費されるエネルギーの削減を目指す。
- ・ 公共交通機関を利用した移動方法の推奨
- ・ カーシェアリングやレンタカー利用の推奨

3-3 省資源、廃棄物の削減（事業系一般廃棄物及び産業廃棄物削減）

【目的】

- ・ 資源の有効活用と廃棄物排出量の抑制により環境汚染の防止に努める。
- ・ 事業所から排出される産業廃棄物（主にプラスチック容器・包装など）の管理を徹底する

【目標】

- ・ 一般廃棄物排出量削減目標を上回らないようにする（別途記載）
- ・ 産業廃棄物排出量削減目標を上回らないようにする（別途記載）

【活動計画】

- ・ 事務所より排出される廃棄物の分別と量の把握を行い削減に努める。
①可燃ゴミ ②不燃ゴミ（プラスチック、PETボトル、缶、ビン）
③新聞・雑誌 ④ダンボール ⑤シュレッダー済みOA用紙 ⑥産業廃棄物（プラスチックなど）
- ・ 本社・大阪支店での環境活動のひとつとして、ペットボトルのキャップを分別・回収（焼却処分するとCO2の発生、埋立処分すると土壌の汚染）することにより、その売却益を発展途上国の医療支援・障がい者・高齢者雇用促進に充てる運動に協力しています。

3-4 水使用量の削減

【目的】

- ・ 限りある資源を有効利用する。

【目標】

- ・ 水使用量削減目標数値を上回らないようにする（別途記載）
東京、和歌山の支店はテナントで使用量の把握ができないため社員全体に取り組みを喚起する。

【活動計画】

- ・ トイレや給湯等での水道使用の節水に努める。
- ・ 水道水の急激な使用を控え、適量の使用を心掛ける。
- ・ 節水の啓蒙をする事で各自の自覚を促す。
- ・ 出水量の調節をする。

3-5 グリーン購入

【目的】

- ・ 環境に優しい製品の事業活動への導入を行う。
- ・ エコマークやグリーンマーク品を優先した調達を行う。

【目標】

- ・ 文具購入明細、OA用紙購入実績を作成し、事務所内で使用する事務用品について環境配慮品の優先的な調達を実践する。

【活動計画】

- ・ 購入する事務用品はカタログにてエコマーク・グリーンマーク表示品を購入する。
- ・ 購入品リストを作成して、環境配慮品をリピート購入する。
- ・ 環境配慮品が無い場合には、代替の物品への切り替えを検討する。

3-6 環境教育

【目的】

- ・ EA21の取組みを全従業員に周知徹底し全従業員で目標達成を目指す。

【目標】

- ・ 当社の環境方針に掲げる「行動指針」の各項目を達成するために従業員全員で取り組む。

【活動計画】

- ・ 教育を通じ全社員への周知徹底を行う。

4. 環境経営活動の取組結果

○岡畑産業全体○

	単位	2013.1～2013.12	2024.1～2024.12		目標値に対する結果	評価
		2013年	活動期間	活動期間		
		基準値	目標値	実績値		
二酸化炭素排出量	kg-CO2	103,197	91,471	93,492	102.2%	×
電力 (3-1)	kWh	128,515	107,681	118,881	110.4%	×
	kg-CO2	66,314	55,563	54,552 ※1	98.2%	○
都市ガス (3-1)	Nm ³	11,286	10,835	11,263	104.0%	×
	kg-CO2	24,378	23,403	24,327	104.0%	×
ガソリン (3-2)	ℓ	5,390 (2023年実績)	5,390	6,299	116.9%	×
	kg-CO2	12,505	12,505	14,613	116.9%	×
一般廃棄物排出量 (3-3)	kg	4,235	4,025	3,598	89.4%	○
産業廃棄物排出量 (3-3)	kg	340	337	110	32.7%	○
水道水使用量 (3-4)	m ³	509	468	260	55.5%	○

※ 上記は各支店の数値を合算したものである。

※ 全事業所を対象に認証取得を開始した2013年度実績を主に基準値として、目標値を設定する。

※ 社用車は西日本のみで使用しているため、ガソリン使用量は西日本全体の数値で算出。

※1: 和歌山支店が入居するビルでは再生可能エネルギー電力を導入しており、CO2排出がゼロとなっているため、和歌山支店分を除いた電力使用量でCO2排出量を計算している

○西日本（大阪・名古屋・和歌山）○

	単位	2013.1～2013.12	2024.1～2024.12			目標値に 対する結果	評価
		2013年	活動期間	活動期間	活動期間		
		基準値	対基準値比	目標値	実績値		
二酸化炭素排出量	kg-CO2	71,521	—	59,796	55,413	92.7%	○
電力 (3-1) 都市ガス (3-1) ガソリン (3-2)	kWh	91,363	92.8%	70,529 ※1	73,405	104.1%	×
	kg-CO2	47,143 (調整後排出係数0.516)	92.8%	36,393 (調整後排出係数0.516)	※2 31,086 (調整後排出係数0.516)	85.4%	○
	Nm ³	11,286	96.0%	10,835	11,263	104.0%	×
	kg-CO2	24,378 (Nm ³ ×排出係数2.16)	96.0%	23,403 (Nm ³ ×排出係数2.16)	24,327 (Nm ³ ×排出係数2.16)	104.0%	×
	km/ℓ	“岡畑産業全体”の表に記録					
一般廃棄物排出量 (3-3)	kg	2,621	92.0%	2,411	1,793	74.4%	○
産業廃棄物排出量 (3-3)	kg	340 (2023年実績)	99.0%	337	110	32.7%	○
水道水使用量 (3-4)	m ³	509	92.0%	468	260	55.5%	○

※1: 電力量の目標値に関しては、2023年度に大阪本社・支店で蛍光灯からLEDに変更を行ったことで削減が見込まれる分（15,360kWh）を反映した形で記載

※2: 和歌山支店が入居するビルでは再生可能エネルギー電力を導入しており、CO2排出がゼロとなっているため、和歌山支店分を除いた電力使用量でCO2排出量を計算している

○東日本（東京）○

	単位	2013.1～2013.12	2024.1～2024.12			目標値に 対する結果	評価
		2013年	活動期間	活動期間	活動期間		
		基準値	対基準値比	目標値	実績値		
二酸化炭素排出量	kWh	37,152	100.0%	37,152	45,476	122.4%	×
電力 (3-1)	kg-CO2	19,170 (調整後排出係数0.516)	100.0%	19,170 (調整後排出係数0.516)	23,466 (調整後排出係数0.516)	122.4%	×
一般廃棄物排出量 (3-3)	kg	1,614 (2016年実績)	100.0%	1,614	1,805	111.8%	×
産業廃棄物排出量 (3-3)	kg	0 (2023年実績)	100.0%	0	0	-	△
水道水使用量 (3-4)	m ³						

※東京支店の水使用量は、ビル全体に含まれるため記録不可

※CO2の排出量合計値における電力使用による排出量は、基準年の2013年度 調整後排出係数で計算し、電力使用に占める割合が最大の関西電力のものを使用する

○その他の活動報告

環境経営目標	2024年実績	評価
物流エネルギー削減 (配送形態の見直しによる輸送距離短縮)	随時見直しを行っている。最適化が図れており、新たな変更は無かった。継続して監視していく。	○
レンタカー環境配慮型の利用 総距離の80%以上	2024年に計98回のレンタカー利用があり、利用全体の98.2%で低燃費(10km/ℓ)以上の運転が達成できている。	○
エコキャップ運動への参加	2024年12月にエコキャップ推進協会へ3,440個のキャップの寄付を行い、2.52kgのCO2削減に寄与した。	○
PRTR指定化学物質販売量の管理	2024年の指定化学物質の総販売重量の内、特定第一種指定化学物質が占める割合は約4.14%であった。	○
次世代の育成	知識を有する社員から若い世代(主に新入社員)へ指導を行い、専門性の高い業界で活躍できる人材の育成を図っている。	○
環境に配慮した商品情報の提供	ISCC PLUS認証を取得し、マスバランス方式を活用した製品の取り扱いが可能となる。認証製品の販売を通じ、持続可能性製品の社会実装に寄与していく。その他、専門誌(化学工業日報)で、工場での電力削減効果が期待されるクルマツECOを紹介。	○

5. 取組結果への評価

○西日本（大阪・名古屋・和歌山）○

5-1（電力） 二酸化炭素排出量の削減について

総量は目標を逸脱する結果となった。基準年度から大きく環境が変わっているはずにも関わらず、その実態を目標値に反映しないままの活動が続いていたため、実態に合うようにあらためて今年度の結果を基準値として翌年度以降の活動を行う必要があるという意見になった。なお、参考として原単位による数値の比較も行ったが、基準年との売上の差が大きく、今年度の目標値設定そのものに無理があったのではないかと見る見方も出来る結果であった。ただし、お客様に応じて室温を調整するなど、適正な温度設定が守られていない部屋も散見されたため、活動内容を社員に周知していく余地もあると思われる。

5-1（ガス） 二酸化炭素排出量の削減について

ガスの使用は大阪本社でのエアコン利用によるものである。機器は3年前に更新したばかりで性能に問題はなく、目標値の超過は単純に使用場所の数や時間の長さが原因と考えられる。基準年当時と比較して、レイアウト変更などに伴い一部エアコンの使用場所の分けも変わっている。そういった点を考慮した目標値設定になっていないため、年間での目標値を再設定する必要があり、電力同様に今年度の結果を基準値として翌年度以降の活動を行っていく。

5-1（ガソリン） 二酸化炭素排出量の削減について

コロナ禍を経て、お客様との関係構築に当たり、対面での営業活動の重要性が再認識されたことで、商談は基本的に対面で行う形に回帰している。WEB会議も活用しているが、お客様の求めがある場合など使用は限定的である。基準としている2023年度と比較するとオンラインでの面談機会は減少傾向のため、使用量の増加は通常利用範囲内で特別な要因はないと考える。利用頻度や使用時間に変更もあったため、25年度以降は今年度実績値を基準値とする。

5-2 一般廃棄物及び産業廃棄物排出量の削減について

年間目標値を大きく達成できた。23年度の大阪支店レイアウト変更の際に不必要なモノなどを廃棄したこともあり、24年度の大阪の廃棄量が大幅に減少したことも要因と考える。なお、10月の目標値超過に関しては、9月の東京支店移転に際し、廃棄可否の確認が必要な荷物が大阪に届き、10月にそれらの廃棄を行ったことが原因である。

産業廃棄物は定期的に排出する廃プラスチックのみであったため目標値を達成することができている。排出実績も変わらないので家庭ごみの持ち込みなどはない。

5-3 水使用量の削減について

年間目標値を大幅に達成。トイレなどの設備交換による節水効果が大きく、目標値の再設定を検討すべき時期と思われる。しかし、大阪で水量不足が原因で12月に排水管内を汚物が流れ切らず詰まりが生じたため、2月に水流量増加の作業を予定。その上で、翌年度は基準値収集の一年と定める。

5-4 グリーン購入調達率について

2021年より数値の記録は行わず、グリーン購入の対象品からの購入を積極的に行っている。

5-5 ガソリン燃費について（西日本合算）

コロナ禍を経て、お客様との関係構築に当たり、対面での営業活動の重要性が再認識されたことで、商談は基本的に対面で行う形に回帰している。WEB会議も活用しているが、お客様の求めがある場合など使用は限定的である。基準としている2023年度と比較するとオンラインでの面談機会は減少傾向のため、使用量の増加は通常利用範囲内で特別な要因はないと考える。利用頻度や使用時間に変更もあったため、25年度以降は今年度実績値を基準値とする。

○東日本（東京）○

5-1 二酸化炭素排出量の削減について

移転後の使用電力量は想定と異なり目標との比較が無意味なため、移転前期間を評価する。来客向飲料用のドリンクウォーマーなど、追加機器による影響もあったと思われる。ビル管理会社への働きかけによる設備の刷新は叶わず、自費導入も叶わなかった。支店の移転が決定したため、全てがゼロからになる。次年度は基本的な活動を継続し、不十分であった空調の適正な温度設定の徹底を改善したい。また、目標設定のための基準値を取得する年度として、年間通して活動を行う。

5-2 一般廃棄物及び産業廃棄物排出量の削減について

東京支店移転に伴う荷物の整理があったことで、年間目標値を逸脱してしまう結果となった。しかしながら、移転決定前と移転後の期間に目を向けると目標を達成していたことから、平時の取組みが効果的であることが伺えた。新事務所ではモノの数や収納スペースが大幅に削減されたが、新しくモノが増えることがないように注意喚起を行っていく。なお、自社が排出事業者となる産業廃棄物は支店では発生しなかった。

5-3 水使用量の削減について

ポスター・教育などでの周知を継続中。

数値による目標、成果が無いので評価が困難であるが、引き続き現行施策を継続して行っていく。

5-4 グリーン購入調達率について

2021年より数値の記録は行わず、グリーン購入の対象品からの購入を積極的に行っている。

6. 関連法規等への違反・訴訟等の有無

- ・ 関連法規等の状況を確認した結果、過去3年間に違反や訴追はなし。
また、関連機関からの指摘はなく、今後も環境関連法規の遵守を徹底していく。
- ・ PRTR法の指定化学物質に関して、当社システムの商品マスターへ含有される化学物質の含有量を登録し適切に管理が行えている。
- ・ 商品マスターで適用法令が確認することができ、SDSの管理も行っている。
在庫・販売等の際は適切な処理ができるようになっている。

最終確認日：2025年1月25日

	適用（要求）内容	遵守状況
毒物及び劇物取締法 (各都道府県条例)	・ 毒物劇物取扱者の選任、届出 ・ 一般販売業・輸入業登録	○
廃棄物処理法	・ 収集運搬処理業者、中間処理業者との契約の有効性 ・ マニフェストA票の照合確認 ・ マニフェストB2、D、Eの返還確認(5年間保管) - 産業廃棄物管理票交付等状況報告書帳簿の作成	○
化審法	・ 規制対象： 新規化学物質、第1種特定化学物質、 第2種特定化学物質、 指定化学物質の製造および輸入	○
P R T R 法	・ 指定化学物質の販売数量の管理	○
労働安全衛生法	・ 職場環境の維持管理 ・ 化学物質管理者の選任 ・ 年1回の定期健康診断の実施	○
消防法	・ 年1回の消防訓練 ↳ 各支店で自社にて実施もしくはテナント実施のものに参加 ・ 消火設備の点検 ↳ 名古屋支店にて期限切れ消火器が見つかったため更新	△
環境教育推進法	・ 環境保全活動、環境教育の自主努力及び協力	○
フロン排出抑制法	・ 対象機器の簡易点検・定期点検	○
グリーン購入法	・ 規制対象: 国、独立行政法人、特殊法人、事業者は一般義務	○

7. 次年度以降の活動目標

今期・次年度以降に関して、それぞれの目標値及び対基準値比を記載。
数値は支店単位でなく、岡畑産業全体の合算値。
※青色ハイライトの列に基準値を記載

	単位	2013年	2025年		2026年	
		2013.1- 2013.12	2025.1- 2026.12 対基準値比	翌期目標値	2026.1- 2027.12 対基準値比	翌々期目標値
二酸化炭素排出量	kg-CO2	103,197	95.1%	98,095	95.1%	98,095
電力 (4-1)	kWh	128,515	99.4%	127,803	99.4%	127,803
	kg-CO2 排出係数	66,314 0.516	89.2%	59,155	89.2%	59,155
都市ガス (4-1)	m³	11,286	99.8%	11,263	99.8%	11,263
	kg-CO2 排出係数	24,378 2.16	99.8%	24,327	99.8%	24,327
ガソリン (4-2)	ℓ	5,390 (2023年)	116.9%	6,299	116.9%	6,299
	kg-CO2 排出係数	12,505 2.32	116.9%	14,613	116.9%	14,613
一般廃棄物排出量	kg	4,235	94.7%	4,012	94.4%	3,999
産業廃棄物排出量 (4-3)		340	98.0%	333	97.0%	330
水道水使用量 (4-4)	m³	509	91.5%	466	91.0%	463
グリーン購入調達率 (4-5)		グリーン購入対象商品を選択可能なものはすべて対象商品を購入する。 2020年以降、数値管理は行わないがグリーン購入対象品の購入を継続する。				

※2025年度以降に目標値が上昇している項目については、「5. 取組結果への評価」をご参照ください

8. 代表者による全体の評価と見直し

全体として目標に掲げている数値は達成できていない。東京支店は広い事務所への移転となり、CO2の排出量も大きくなっている。但し、移転前までも目標は未達であった。設備の更新をビル管理側で行ってもらうことはできず大きな削減を求めることはできなかったが、活動の計画をすべて履行できてはいなかったので、今後の活動では徹底することが求められる。

大阪支店では、LED化の効果によりCO2排出量は大幅に下がったが、目標値をシミュレーション上の「削減効果」を反映させたものとしていた。シミュレーション通りの効果が出なかったのか別の要因が大きいかについては確認できなかった。実際の効果が反映された数値による目標設定が必要である。空気清浄機の設置によって窓を開けず空調の効率化の効果も期待したが、目標は達成できなかった。また、空気清浄機を24時間稼働させており、電気使用量は増加した。

次年度も活動の継続をして環境負荷の軽減に努めるが、設定した目標値が妥当かつ適正なものでなければ再検討を行う必要がある。

2025年2月10日